

令和元年 秋の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

今回も小学生には読書感想文、中学生には「グローバル化時代に活躍するには」というテーマの課題作文に取り組んでもらいました。自分自身の感じたこと、考えたことを文で表現することは本当に大切です。「うまく書けなかった…」という生徒は、別の本や過去の課題作文を利用してぜひ再チャレンジしてみましよう。過去の課題テーマや金賞受賞作品は当塾ホームページに掲載されています。提出してくれば、講師が添削した上でアドバイスもしていきます。良い作品を読んだり、文を書いたりする挑戦を続ければ少しずつ上達していくと思います。実際、今回金賞に選ばれた一人の生徒は、取り組む前に過去の金賞受賞作品をいくつも読んで参考にしていたそうです。

そこで今回の講評では、金賞を受賞した作品に共通している良い点を紹介していくことにします。それは、本や課題文の内容と自分自身のことを照らし合わせて述べた上で、今後の目標を掲げているということです。「私はこうである」「私はこうしていきたい」といった独自の切り口で話を展開すると読み手の心に響きやすいというのを覚えておいてください。

ところで、中学生向きの課題の方には訪日してくる外国の方に

「いただきます」という言葉を説明する場面を設けて二つの回答例を掲載しておきました。金賞に選ばれた作品は二つとも、より難しい説明を選択したいとしていましたが、これはたまたまであってどちらかが正解というわけではありません。実際、作成者自身はより簡単な説明を選択すると思います。それでも、この二つの作品が選出されたのはチャレンジ精神に満ち溢れた内容だったからなのです。これは小学生の読書感想文についても同じです。皆さんもこういった点に注目しながら、ぜひ金賞受賞作品を読んでみてください。

最後に、受賞に至らなかった作品の多くに見られた修正するべき点を三つ挙げておきます。まずは文体の統一です。常体（く）である）、敬体（く）です（く）ます）いずれで書いても構いませんが混用は避けましょう。二つ目が話し言葉を無意識に使わないようにするということです。例えば「けど」「けれど」は話し言葉ですので、特に意図がなければ「けれど」という書き言葉を使うようにしましょう。最後が主語と述語の不整合です。主語と述語にねじれが起きていないかを書きながら必ず点検する癖を身につけてください。次回のチャレンジまでにこういった点を克服して少しでも良い作品に近づいて欲しいと願っています。